









# 仙北マタギ

中仙町・豊岡熊マタギ

玉川田沢地区、桧木内戸沢地区、神代刺巻地区、角館白岩地区、中仙豊岡地区、太田真木地区、千畑大阪・元本堂・黒沢地区、六郷湯田地区・・・「半農半猟」の暮らし

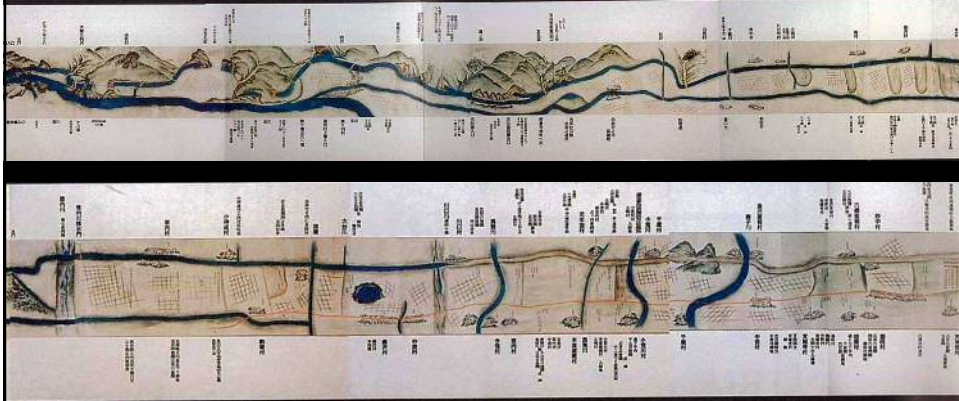


# 原野が広がる仙北東部

秋田藩主佐竹義宣が鷹狩りに頻繁に訪れていた・・・  
 「この原野に玉川の水を引けないものか」→1824年御堰開削計画



## 旧御堰絵図



1824年 御堰の開削計画  
抱返溪谷入口・若松堰付近左岸～六郷村川内池 約30km  
1826年 着工～1833年 御堰完成 開田約200ha  
①漏水大 ②度重なる災害(中小河川横断) ③玉川毒水被害  
1854年 大洪水のためほとんど使用不能に

## 玉川毒水



### 大噴

目の前の源泉は大噴と呼ばれ、温度98℃、PH1.2ほどの日本一の強酸性水が大量(毎分8,400ℓほど)に湧き出しています。この温泉は、塩酸を主成分としているのも大きな特徴です。また、下流の玉川は、大噴の強酸性水の流入で酸性が強く「玉川毒水」と呼ばれています。

環境庁 秋田県



### 対策の歴史



① 毒水排除工事



② 地下溶透法



③ 簡易石灰中和法



① 御嶽開削後の千八百四十一年、角館の田口親子が毒水排除工事を実施

② 田沢疏水が始まった昭和14年、地下溶透法を実施

仙北平野の開発が遅れたのは、この玉川毒水の存在が大きかった。この除毒対策は、田沢疏水の歴史とともに行われてきた。

娘の身売りの防止ポスター



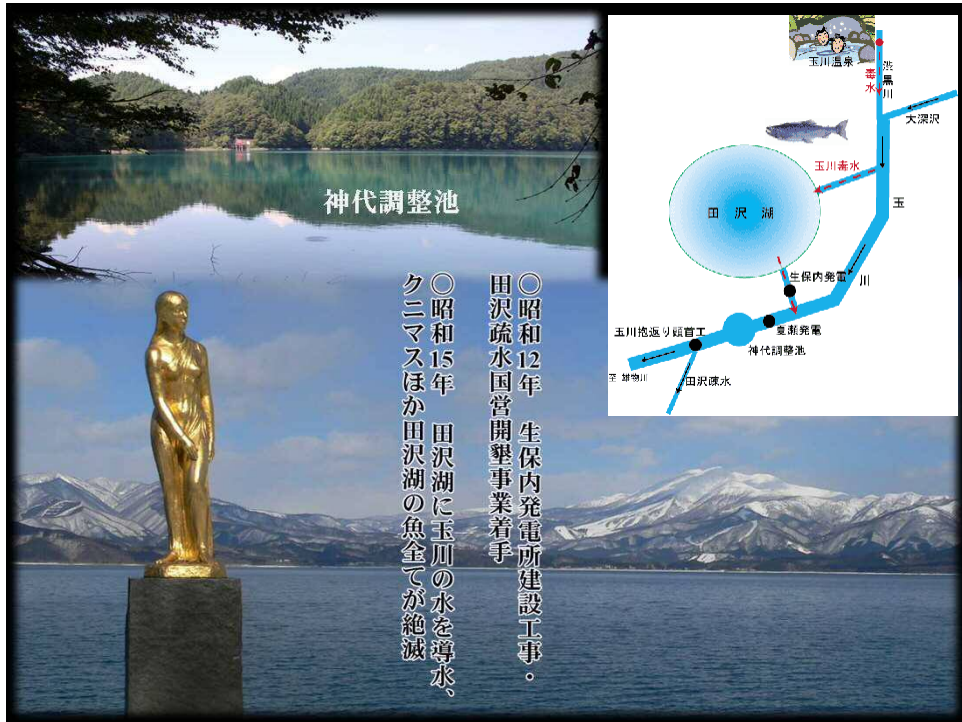
相談は 台場公設紹介所

離村子女を 護れ

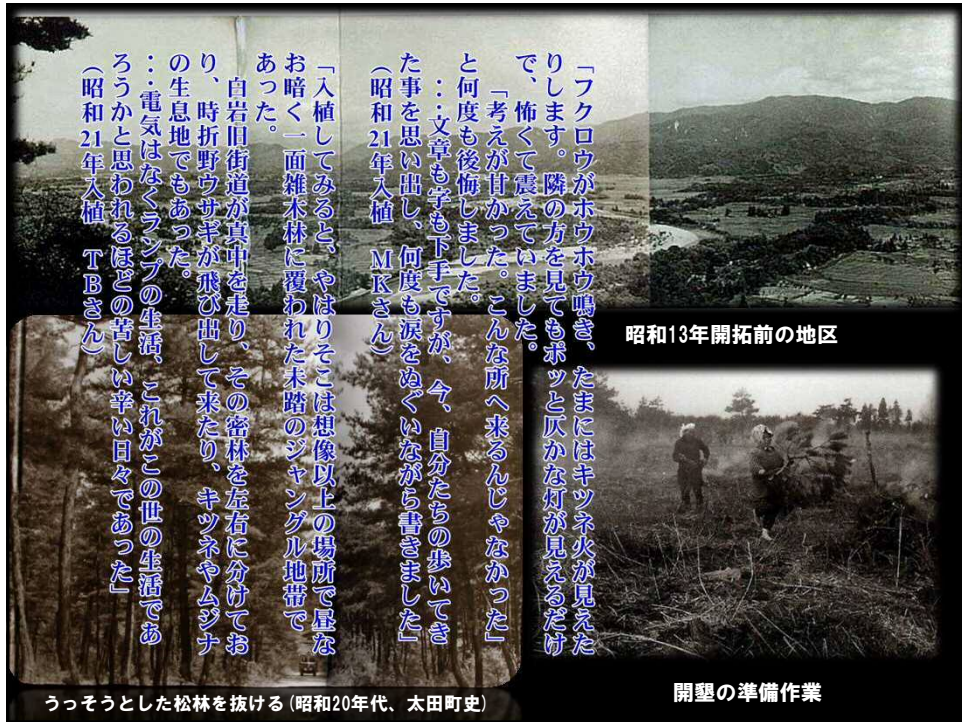
身に餘り相談は方面委員へ  
ちよつと待て娘を責るな  
かせぐに追ひつく貧乏はないぞ  
生業資金 託兒  
醫留療 養老等  
思案に餘つたことは  
遠慮せず  
方面委員へ

- 昭和9年凶作・・・娘の身売りの数、1万1,182人、前年の2.7倍に急増
- 娘の身売りが多かったのは、大地主の多い仙北・平鹿郡
- 「横手駅発午後3時41分上野駅直行は身売り列車だ」魁新聞

昭和恐慌と度重なる凶作  
⇒昭和11年、東北振興電力会社設立、田沢疏水開墾計画樹立









「開墾を思い切り振り上げ、力任せに打ち下ろすと、この重い鍬が玉石に当たり火花を散らしてはね返り、今度は少しずらしてもう一度、またはね返され今三度、またまた火花とともにね返され、腹が立つより悔しく、最後は情けなかった。……くじける心を励まし励まし振りあげるが、やめようと思ったことは二度や三度ではなかった。……私の開拓史は、石との戦いで終始しました。あの石カウが田んぼに変わったのです。石の上にも三年の諺以上に、十年もかかりました。私はとうとう石に勝った。」  
(昭和22年入植 IYさん)

開墾で掘り出された石の山



「田舎裏に開墾時に掘り起こした松の根をたいて仕事をしたが、何しろ松の根っこであるからススが出る。真っ黒になりながらの生活であった。……真っ白い雪の上に点々と黒い足跡を付けながら用事をはたしに歩いていると、山奥から下りて来たクマのように見えたであろう、そのために移住民と言われたこともあった。」  
(昭和15年入植 NHさん)

開拓地の抜根の山(新興で)





「いよいよ水が来た時は水路の底を這うように揺めるように、濁水が分水を右に左に別れながら各家の農地めがけて流れ込むのを、先になり後になりしてついて走り廻った。」  
 (昭和21年入植 SKさん)

「来年水がくるとのこと、開拓者総動員で支線や小用水路掘りをしました。いよいよ水がくる。半信半疑だけれど、ともかく二枚の田をつくり苗の準備をしました。ついに来た。来た、永年待ちに待った水が来たのです。」  
 (昭和15年入植 HKさん)

かつては不毛の地と言われたここにも水がくる (8号支幹線用水路完成/千本野/昭和27年)

沼相



「昭和26年には期待した通水が実現し、部落民を感動させた。人々は水田作りに無我夢中であった。」

「秋になると、黄金色に染まった稲が部落民を喜ばせてくれた。秋に入植以来初めてとれた米に、みんなの顔は福の神になった。」  
 (昭和24年入植 NYさん)

## 農村文化の源 結と絆





「通水が始まり、自分たちが苦勞して造った水田で初めて米を収穫し、飯米を自給することができた時の喜びは、何にも例えようのないことでした。」

ああ、これで私たち8大家族が生きられる、と一層感謝の気持ちで一杯でした。」  
 (昭和22年入植 KTさん)

供米風景(千本野)



「今、玄関に出て田を見るたびに、40年前に夫と一人息子と過ごした入植当時のことが思い出され、自然と落ちる涙をかくしようがありません。」

：若い盛りの入植者同志が互いに励まし合い、助け合い、そして将来の百姓生活の夢を語り合い、子供の成長を楽しみに開墾鋤を振るったものでした。」

そして田沢疏水の完成で水が流れてきて、たった二反歩ほどでしたが、稲づくりができた時は、機械で米々と米をとれるようになった今の息子や嫁に知ることのできない、何にも例えようのない喜びで、夫と一緒に開拓してよかったと語り合ったことが、昨日のように思えてなりません。」  
 (昭和22年入植 KYさん)





平成元年、中和処理施設運転開始  
平成10年頃には、  
田沢湖でPH4.7→PH5.3。  
玉川頭首工でPH5.7→PH6.5へと改善。



**WANTED**

秋田・田沢湖に  
生息していた深湖魚・クニマスを探しています。

**¥5,000,000**

クニマスの情報  
クニマス(鱒)は、秋田県に生息する淡水魚の一種で、秋田県内に生息していたとされています。近年、秋田県内各地でクニマスの生息が確認されています。秋田県では、クニマスの生息地を調査し、その生息状況を把握しています。秋田県では、クニマスの生息地を調査し、その生息状況を把握しています。

クニマス(鱒)は、秋田県に生息する淡水魚の一種で、秋田県内に生息していたとされています。近年、秋田県内各地でクニマスの生息が確認されています。秋田県では、クニマスの生息地を調査し、その生息状況を把握しています。秋田県では、クニマスの生息地を調査し、その生息状況を把握しています。

平成7～10年、田沢湖町観光協会  
クニマス探しキャンペーン展開





生きていたクニマス

山梨県西湖、70年ぶりに発見！  
生きたクニマスを見たい・・・

山梨県西湖で捕獲されたクニマスの標本

### 菅江真澄 (1754~1829)

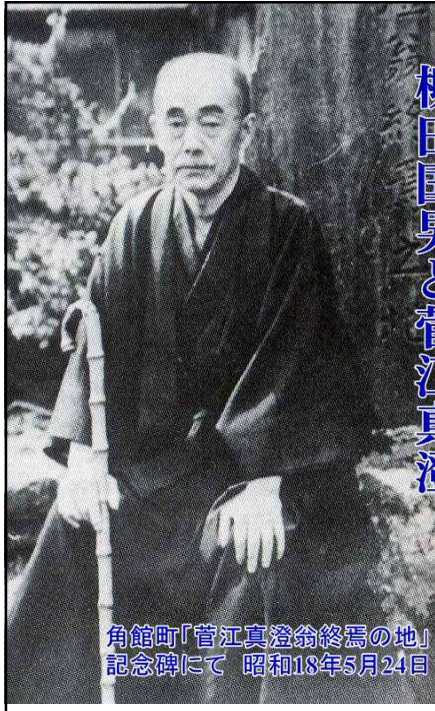
1783年(30歳)・三河発～  
1784年・秋田～青森・岩手・宮城・北海道  
1801年・秋田(48歳)～1829年仙北郡で没(76歳)

- 日記や地誌、絵図など約130種類、240冊
- 藩校明德館献納89冊・・・国指定重要文化財

歩く、見る、聞く、記録する

47年の旅のうち秋田約30年間



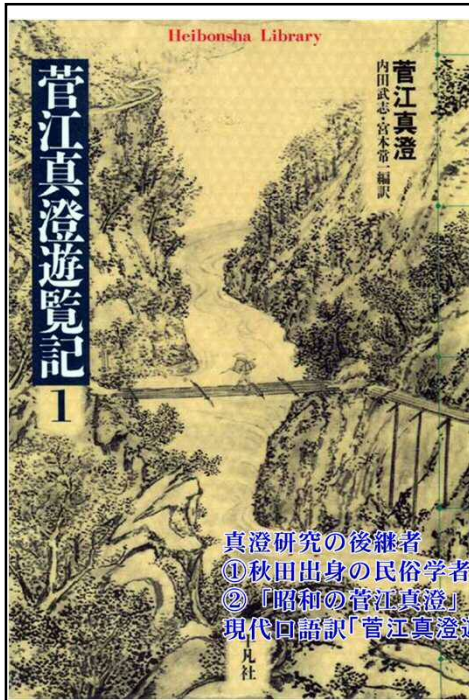


柳田国男と菅江真澄

1. 明治末、内閣文庫で真澄遊覧記を読む
2. 大正～昭和、次々と真澄を紹介する文章を発表
3. 昭和3年、「真澄遊覧記を読む」
4. 昭和17年「菅江真澄」発刊

真澄遊覧記の特徴は…  
 「第一には、世に顕はれざる生活の観察である…小さき百姓たちへの接近である。」(信州と菅江真澄)  
 ⇒「民俗学の先駆者」

角館町「菅江真澄翁終焉の地」  
 記念碑にて 昭和18年5月24日



真澄研究の後継者  
 ①秋田出身の民俗学者・内田武志(1909～1980)  
 ②「昭和の菅江真澄」・宮本常一(1907～1981)  
 現代口語訳「菅江真澄遊覧記」全5巻(昭和46年)



宮本常一のメッセージ  
 周防大島 土佐大学 教授  
 佐野眞一・藤本浄彦・榎井巧・小泉凡・立松和平  
 みずのむ出版



秋田県は、国の重要無形民俗文化財は16件で全国一位。それは真澄の記録が決めた手になったからである。



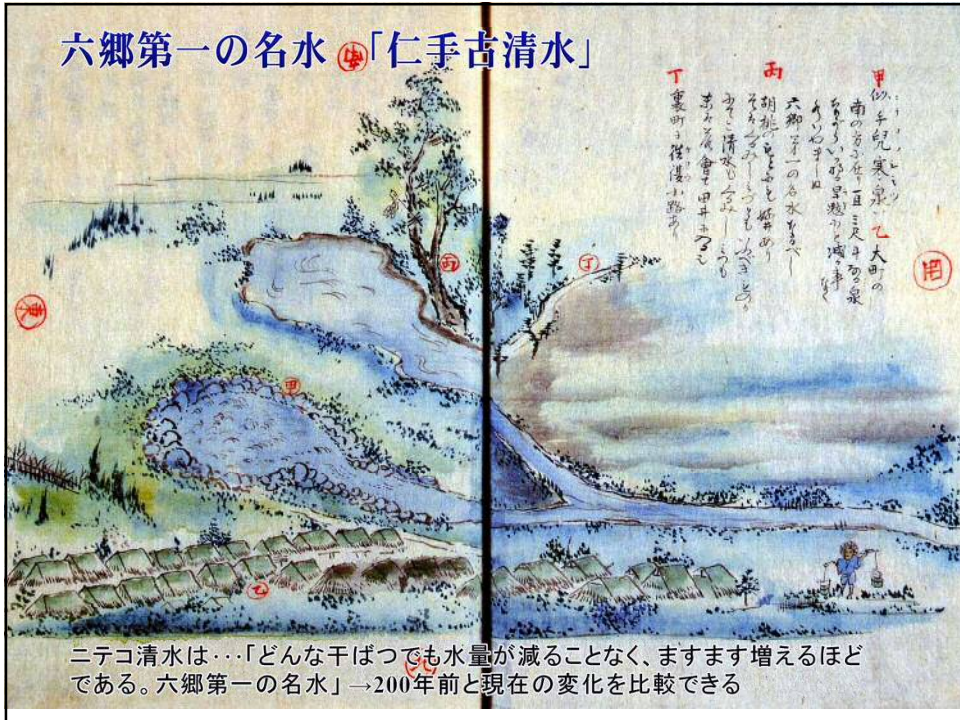
男鹿の「ナマハゲ」

菅江真澄の絵図は、現在に重要なデータを残してくれた



六郷の「かまくら」

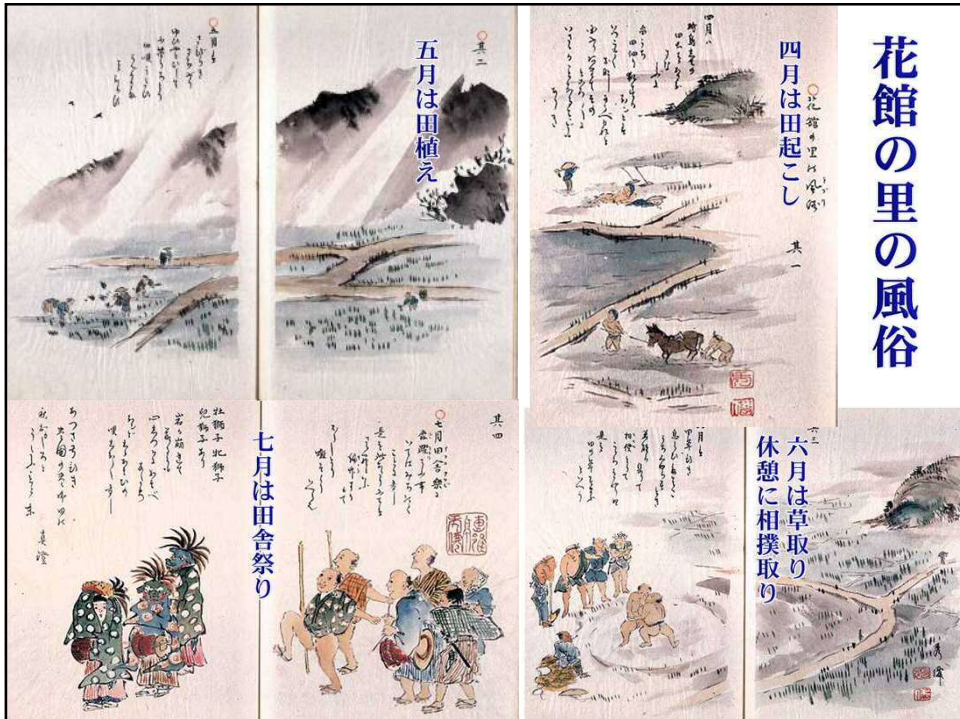
六郷第一の名水 甲「仁手古清水」



ニテコ清水は・・・「どんな干ばつでも水量が減ることなく、ますます増えるほどである。六郷第一の名水」→200年前と現在の変化を比較できる



# 花館の里の風俗



# 八郎潟 氷下漁

- 過酷な自然と向き合いながら、額に汗して働く農山漁村の人々の暮らしと文化を、カラーの絵図と文で記録
- 「無文字の民衆社会」を記録→民俗学の先駆者
- 農業農村振興の宝物

氷下漁の細見八七人  
 原夏の浦邊屋敷水俣  
 取とも八八人引を指す  
 七人の隊主人を領子  
 とし今一人を村者といふ  
 大田黄丸の隊はさう  
 わら老たたくはさう  
 さい村を動かすまゝのま  
 (さうさ)







1811年(58歳) 金足村小泉の「奈良家」で「那珂道博」に会う。  
 秋田藩主佐竹義和謁見、地誌作成の内命⇒秋田永住を決意  
 1845年、石川理紀之助は、奈良家分家の三男として生まれる。



### 秋田県農業の神様 「石川理紀之助」

- ①真澄は本家と分家を行き来していた。実家の奥の間6畳を真澄の学問所として提供。
- ②彼の祖父は、真澄の教え子であった。
- ③11歳の時、寺内の菅江真澄の墓を訪ねる
- ④真澄の文章収集・・・天明の大飢饉の記録



石川翁の生家(奈良家の分家)





明治11年(34歳)、  
種苗交換会開催



第134回 先人に学び 農業の未来をひらく  
**秋田県種苗交換会**

横手に集い  
開け未来の  
秋田の食

会場・秋田県横手市  
会期・平成23年10月29日(土)～11月4日(金)

主催・秋田県農業振興センター  
協賛・横手市農協 秋田県農協 秋田県畜産振興センター  
http://www.akita-agriculture.com/shuyoi/

明治16年39歳 県庁を辞職  
借金にあえぐ山田村救済開始



寝ていて人を起こす事なかれ

山田村石川家

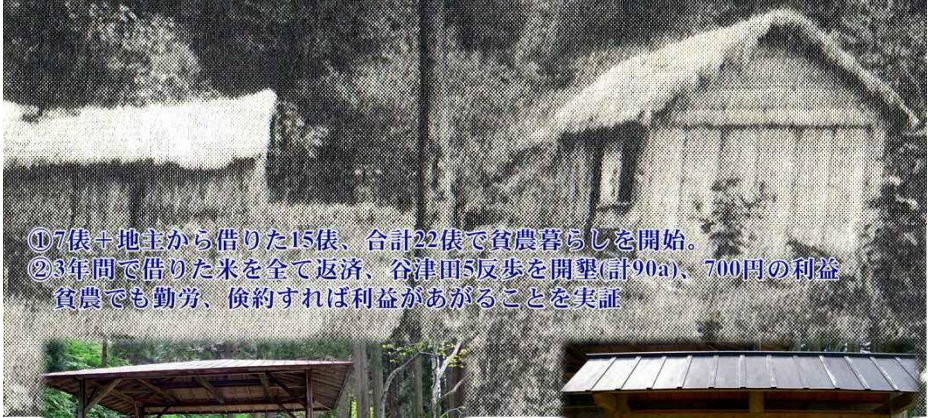
**明治18年41歳…相互扶助の組織「山田村経済会」  
(山田村25戸)**

- ①朝三時、掛け板を打ち、ワラ仕事をすすめる
- ②良質堆肥づくり、二倍の量を施す→増分は借金の返済へ
- ③養蚕を取り入れ、副業に精を出す→貯蓄を心掛ける
- ④米に山菜やイモ、大根を混ぜ、1割の米を残す→病や凶作に備える
- ⑤仲間外れが出ないように助け合い励まし合う
- ⑥一家の主が病で倒れると、村人が総ぐるみで手をさしのべる
- ⑦節約、暮らしに必要な物は共同で買う(値引き)





明治21年 44歳~46歳 草木谷山居



- ①7俵+地主から借りた15俵、合計22俵で貧農暮らしを開始。
- ②3年間で借りた米を全て返済、谷津田5反歩を開墾(計90a)、700円の利益  
貧農でも勤労、節約すれば利益があがることを実証



明治30年53歳 飢えに苦しむ農村巡回指導



- 明治29年六郷地震、30年大凶作で苦しむ仙北から巡回
- ①経費は全て自費
  - ②荷車に自炊用具一式を積み、学校・お寺等に宿泊
  - ③講演後、山林に入って薪を集め自炊

巡回中、娘に出した手紙…  
「飢えて物も言えない人を見ると、難儀も忘れ巡回している。  
増田町の商人地主は、人力車に乗って花見に繰り出していると聞き、

**おのれのみ 花に遊ぶぞ 心無き 飢えて苦しむ 人を見ながら**



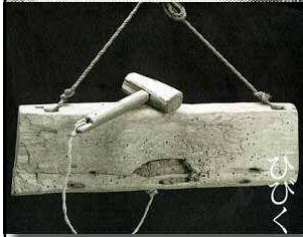




大正4(1915)年 71歳で永眠



石川翁の葬儀…参列者数千人



○膨大な日記、和歌30万首、  
著書730余冊→次世代のため  
に記録を残す。菅江真澄  
の影響大？



世にまだ 生まれぬ人の 耳にまで 響き届けよ 掛け板の音



三・一一東日本大震災…  
苦しい時こそ…  
人と人をつなぐ  
地域と地域をつなぐ  
お互いに支え合い、助け合う  
そこから「希望の光」が見えてくる